

胸部レントゲン検査

肺炎、肺結核、肺がん、肺気腫、胸水、気胸など、呼吸器の疾患の有無、その程度がわかります。

所見

右胸心	本来は胸部の左側にある心臓が右側にあります。生まれつきの異常によるものです。
右側大動脈弓	大動脈弓が、正常な場合とは逆に右後方に向かい、脊椎の右側を下降しています。生まれつきの異常によるものです。
横隔膜挙上	横隔膜が上にあがっている状態です。横隔膜神経の麻痺、横隔膜弛緩症、肝腫大、横隔膜ヘルニアなどでみられます。
気管偏位	気管の位置が外部組織からの影響により、左右いずれかに偏位した状態です。広範な無気肺（上掲）の場合には無気肺化した側に気管が引き寄せられ、縦隔腫瘍などの場合には反対側に押し出されます。
気胸	肺泡という袋状の組織が融合した大きな袋が破れる病気です。ブラという空気の袋の破裂などが原因で起こります。その結果、肺から空気が抜けて萎んだ状態（肺虚脱）となり、胸部エックス線検査では虚脱した肺と胸腔内に空気の溜まりとして認められます。胸腔内圧が上昇する緊張性気胸では、縦隔部が圧排されて反対側に偏位し横隔膜が押し下げられます。
奇静脈葉	奇静脈が発生途中で肺を横切ったために、右肺の上部が2つに分かれている状態です。生まれつきの異常によるものです。
開胸術後	心臓手術や胸腺腫などの縦隔腫瘍などの手術の後で胸骨に手術後再接合のための金属線で止めた痕などが見られます。
胸水	胸部に通常存在しない水がたまった状態です。心不全、腎不全、胸膜炎などの場合に見られます。
胸膜の石灰化影	肺を包む胸膜にカルシウムが沈着するものです。肺結核、塵肺症（じんぱいしょう）などの場合に見られます。
胸膜肥厚	肺を包む胸膜が厚くなった状態です。過去の胸膜炎、肺感染症などが考えられます。
胸膜癒着	胸を包む胸膜に炎症が起こり周囲に癒着した跡です。過去の胸膜炎、肺感染症などが考えられます。

結節影	胸部エックス線画像に映った直径 3 cm 以下の類円形の陰影をいいます。原発性肺がんや、大腸がん、腎がんなど他の部位からの転移、結核、肺真菌症（カビで起こる病気）、非結核性抗酸菌症、陳旧化した肺炎、良性腫瘍（過誤腫など）などに見られます。
腫瘤影	直径 3 cm を超える類円形の陰影をいいます。肺膿瘍、肺腫瘍などに見られます。
縦隔拡大	縦隔（上掲）の幅が広がっている所見です。大動脈瘤、腕頭動脈延長、縦隔腫瘍などに見られます。
縦隔の腫瘤影	胸郭内で左右の肺、胸骨、椎骨に囲まれた部分を縦隔と呼び、中に気管や大動脈、心臓、大静脈、肺動静脈などが存在し中心陰影を形成します。縦隔から生じて中心陰影に接して現れた腫瘤影をいいます。
心陰影拡大	心臓の陰影の横幅が胸の横幅の 50% よりも大きくなっています。肥満、心不全、心臓弁膜症などの場合に見られます。
浸潤影	肺胞内への細胞成分や液体成分が入り込んで生じる境界の不明確な陰影をいいます。肺炎、肺結核など肺感染症に見られます。
脊椎側弯	背骨が、左右どちらかに弯曲していることを言います。
石灰化影	肺結核などが治ったあとに石灰分が沈着して白く映る陰影です。肺過誤腫などにも石灰化影を見ることがあります。
線状影	太さが 1~2mm の細い線状の陰影をいいます。葉間胸膜の肥厚や、心不全でのリンパ管の拡張などで現れます。
大動脈弓の突出	大動脈の上部はループを描いて走行していますが、そのループが大きく拡大しています。動脈硬化などの場合に見られます。
大動脈の伸展延長	大動脈の径が拡大しています。大動脈弁閉鎖不全、大動脈瘤などの場合に見られます。
大動脈の石灰化影	大動脈にカルシウムが沈着しています。動脈硬化などの場合に見られます。
大動脈の蛇行	大動脈が弯曲して走行しています。動脈硬化などの場合に見られます。
嚢胞	肺胞の壁の破壊や拡張によって、隣接する肺胞と融合した大きな袋になったもので、一般には直径 1 cm 以上のものをいいます。これが破れると自然気胸という病気が起こります。
肺門リンパ節腫大	胸部の中心にある心臓から左右の肺に入る太い肺動静脈や気管支が心臓近くで肺門部を形成します。ここには多数のリンパ節が存在し、肺腫瘍、肺結核、サルコイドーシスなどでリンパ節が腫大した所見を示します。

癒痕像	肺感染症が治ったあとに残った小さな痕跡の陰影です。
網状影	肺の奥深くでガス交換を行う肺胞の支持組織を肺間質と呼びますが、そこへ細胞や浸出液が入り込むと、肺間質や周りの小葉間結合織が肥厚します。すると直径数 mm 前後の網の目状に見える陰影が広範囲に広がって見えるようになります。肺線維症（間質性肺炎）、サルコイドーシスなどに見られます。
粒状影	直径数 mm 以下の顆粒状の陰影で、び漫性に広い範囲に見られる事の多い陰影です。粟粒結核、肺真菌症、びまん性汎細気管支炎などに見られます。
肋骨骨折痕	骨折後の所見として、骨折線が認められたり骨の破断や離解が見られます。また骨折後の変化として骨硬化像がよく見られます。
肋骨の奇形・変形	肋骨の形態異常や変形を指しますが、おそらく病気というよりは生まれつきの個人差によるものととらえて良いと思います。代表的なものとして、頸椎から肋骨が発生する頸肋や肋骨の癒合などがあります。